

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度第1回福津市介護保険運営協議会
開催日時		令和8年7月13日（月） 19:00～21:00
開催場所		福津市役所 別館1階 大ホール
委員名		<出席委員> 松本 直人 会長、山城 崇裕 副会長、中島 啓輔 委員 馬場 渉 委員、野田 容美 委員、肥田木 弘一 委員 吉村 美香 委員、春日 伸二 委員、天野 幸治 委員 大庭 祥子 委員、中嶋 敏郎 委員、山下 美恵子 委員 漆谷 慎一 委員、田島 勝彦 委員 <欠席委員> 高杉 正 委員
所管課職員 職氏名		健康福祉部 大庭部長 高齢者サービス課 桑野課長 介護事業所指導係 林田係長 高齢者福祉係 野中係長 介護保険係 大峰係長、大北
会 議	議 題 (内容)	1 令和8年度介護保険運営協議会のスケジュール（説明） 2 介護保険制度の流れと次期計画の内容（説明） 3 地域包括支援センターの運営について (1) 令和7年度年間実績報告 (2) 令和7年度事業報告及び収支決算 (3) 令和8年度事業計画及び収支予算 4 令和7年度総合相談データに基づく地域分析評価 5 地域別の取り組みについて（令和7年度取り組み結果と令和8年度取り組みについて） 6 令和7年度地域密着型サービス部会について（報告） 7 その他
	公開・ 非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	・次第 ・資料2-2 ・資料3-3 ・資料4 ・資料6 ・資料1 ・資料3-1 ・資料3-4 ・資料5-1 ・資料2-1 ・資料3-2 ・資料3-5 ・資料5-2
会議録の作成方針		☒ 要点記録 記録内容の確認方法 会長に確認
その他の必要事項		<委員以外の出席者> 福津市地域包括支援センター センター長

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

○協議の結論等

- 1 令和8年度介護保険運営協議会のスケジュールについて説明
- 2 介護保険制度の流れと次期計画の内容について説明
- 3 地域包括支援センターの運営について説明
 - (1) 令和7年度年間実績報告
 - (2) 令和7年度事業報告及び収支決算
 - (3) 令和8年度事業計画及び収支予算
- 4 令和7年度総合相談データに基づく地域分析評価について報告
- 5 地域別の取り組みについて（令和7年度取り組み結果と令和8年度取り組みについて）報告
- 6 令和7年度地域密着型サービス部会について報告
- 7 その他

○経過

- 1 市長あいさつ
- 2 次期計画（第11期高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画）の諮問
- 3 議事

○議事の経過

- 1 令和8年度介護保険運営協議会のスケジュールについて（説明）
資料1に基づき、令和8年度介護保険運営協議会のスケジュールについて説明。
- 2 介護保険制度の流れと次期計画の内容について（説明）
資料2－1、2－2に基づき、介護保険制度の流れと次期計画の内容について説明。

委員：令和10年から全国的にスタートする「介護情報基盤」に向け、各市町村でシステムの標準化が進められているが、福津市の進行具合はどうか。

事務局：大部分の標準化は終わっており、残る作業は今年10月末に実施予定である。
令和9年4月には情報提供ができる仕組みを整えたいと考えている。

委員：高齢者が自ら支援の担い手になることが求められているが、社会参加や介護予防の具体的な計画はあるか。

事務局：現在、リハビリ専門職が3ヶ月集中支援する「通所型サービスC」や、プレフレイル対象の健康増進室（ジム）利用への移動を支援する「訪問型サービスD」を実施している。来年度の計画にもこれらを盛り込む予定である。

副会長：県が実施している「オーラルフレイル事業（歯科衛生士の派遣や指導）」を、市としても是非手を挙げて実施してほしい。

事務局：検討する。

- 3 地域包括支援センターの運営報告
 - (1) 令和7年度年間実績報告
資料3－1に基づき、令和7年度年間実績報告について説明。

委員：虐待のケース数が増えているが、具体的な内容や傾向はどうか。

センター長：虐待認定に至るケースは相談の半分以上だが、身体的虐待が圧倒的に多い。具体的には、夫婦喧嘩の延長で夫が妻を突き飛ばした例や、精神疾患のある息子が母親に暴力を振るう重度な事例などがある。

委員：埼玉県でケアマネージャーが刺される事件があったが、訪問時に身の危険を感じるような事例はあるか。

センター長：過去１年間で身の危険を感じる報告はないが、対応が難しいケースは１人で行かせないなどの対応をしている。

委員：地域のサロンではどのような活動が行われているのか。

センター長：お茶を飲んだり体操をしたりするのがメインだが、ものづくりや健康麻雀も最近は広がっている。何より「集まっておしゃべりをする事」が大切だと言われている。

会長：相談件数が増えるのは周知が進んでいる証拠だが、不要な相談（周知で解決するもの）まで増えていないか。スタッフの負担軽減のためにも検証が必要ではないか。

センター長：検証を進め、必要な対応を検討していきたい。

委員：出前講座にはどのようなテーマがあるのか。

センター長：介護保険制度、熱中症対策、成年後見制度、転倒予防、介護予防など多岐にわたる。

会長：市内で多職種（医師・歯科医師・薬剤師等）が連携する会議の開催状況はどうか。

センター長：現在は宗像市と共同で行っているむーみんネットでの開催はあるが、市単独での開催はない。検討していきたい。

委員：以前の研修で、地元の薬剤師会が把握していない状況で特定の薬局が関わっていた例があった。今後はまず地域の職能団体（薬剤師会等）に相談してほしい。

センター長：承知した。まずは各会に相談するようにする。

（２）令和７年度事業報告及び収支決算
資料３－２、３－３に基づき、令和７年度事業報告及び収支決算について説明。

会長：最終的に黒字となっているが、これは人員不足でやりたくてもできなかった業務があった結果ということなのか。業務のキャパシティはどうだったのか。

センター長：人員不足によりキャパシティは限られた状況ではあったが、地域活動の視察については参加人数を調整するなど、限られた人員の中で工夫を重ね、効率的な運営を行っていたのが実情である。

(3) 令和8年度事業計画及び収支予算

資料3-4、3-5に基づき、令和8年度事業計画及び収支予算について説明。

4 令和7年度総合相談データに基づく地域分析評価

資料4に基づき、令和7年度総合相談データに基づく地域分析評価について説明。

委員：医療側が「何を相談すべきか」を正しく理解すれば、不要な相談が減り、包括の負担も減るのではないかな。

会長：まさに多職種連携の場などで情報を共有し、効率化を図ることが重要である。

委員：要支援者のプラン作成報酬は、要介護者と比べて非常に低い。しかし、本人はお元気で意向がはっきりしているため、訪問回数や調整業務は要介護1程度と変わらず、負担が大きいのが現実である。

会長：国レベルでの改善要望も出ている。

委員：管理職だけでなく、現場の職員同士が職種を超えて意見交換できる機会を増やしてほしい。

会長：非常に必要だと考える。

委員：認知症が疑われる際、大きな病院以外でどこに相談すればよいか分からない。

委員：市内には「認知症サポート医」が5名ほどおり、各中学校区に1人はいるイメージである。まずはかかりつけ医に相談し、いなければ包括支援センターへ連絡してみるのもいいのではないかな。

5 地域別の取り組みについて（令和7年度取り組み結果と令和8年度取り組みについて）

資料5-1、5-2に基づき、地域別の取り組みについて（令和7年度取り組み結果と令和8年度取り組みについて）報告。

6 令和7年度地域密着型サービス部会について（報告）

資料6に基づき、令和7年度地域密着型サービス部会について報告。

7 その他

特になし。